

競技上の注意

審判長 西山 朗

1. ボール及びボールの選択について
 - (1) ボールは、白色スリースター・40mm プラスチック球（ニッター、TSP、バタフライ）を使用する。
 - (2) 試合ボールは、審判員が持参したボールケースの中から審判員が無作為に選ぶ。
2. ラバー、ラケットについて
 - (1) ラバーは、ラケット本体より大きかったり、小さかったりしないこと。
 - (2) 外国製ラケットで、JTAA のマークのないものを使用する場合には、あらかじめ試合前に審判長の許可を受け、試合の際は発行された許可証を携行すること。
3. 接着剤の使用について
 - (1) ラバーの接着は、(公財)日本卓球協会が公認した接着剤あるいはPSAシートを使用しなくてはならない。
 - (2) 接着剤の使用は、指定された場所に限る。
4. 服装について
 - (1) 競技服装は、(公財)日本卓球協会公認（赤ワッペン）のものであれば、どのような色でもよい。黒ワッペン、白ワッペンのうち主たる色が白のものは着用できない。ベンチ内では、監督・アドバイザー・選手は白いトレーニングウェアやシャツなどの着用を避けること。
 - (2) 学校対抗戦の選手および、個人戦でダブルスを組む選手は、靴および靴下を除いて同一の服装で競技しなければならない。
 - (3) 対戦する選手は、互いに区別できる程度に異なった服装で競技しなければならない。学校対抗戦においては、オーダー交換の際にお互いのウェアの色を確認すること。
 - (4) ゼッケンは、2019年度の(公財)日本卓球協会指定のものを着用すること。
5. 競技の継続とマナーについて
 - (1) 競技者・監督・アドバイザーは、相手に対して不当な影響を与え、観客に不快感を与え、または、そのゲームの評判を落とすような癖や態度を慎まなければならない。
 - (2) 競技者・監督・アドバイザーのバッドマナーは、競技ルールに従ってペナルティの対象となる。
 - (3) みだりに競技の遅延行為をしないこと。
6. その他
 - (1) 6月15日（土）学校対抗戦1回戦のオーダー提出は女子8:20、男子9:20とする。以後は試合予定の20分前を原則とするが、その時間に対戦相手が未定の場合は相手が決まり次第提出すること。オーダー用紙は記入後5枚複写のまま封筒に入れて提出する。
 - (2) 個人戦（ダブルス・シングルス）のアドバイザーのベンチ入りについて
 - ・アドバイザーの資格は、大会申し込み時にエントリーされた監督、もしくは当該校の生徒に限る。
 - ・アドバイザー（1名）は、試合開始時に選手とともに競技場に入場する。ただし、他のコートでアドバイスをしていた場合は、試合途中で空席のベンチに入ることができる。
 - ・アドバイザーが試合の途中で交代することはできない。また、アドバイザーは試合途中でコートを離れてもよいが、以後はコートに復帰できない。
 - ・1名で同時に複数のアドバイザーを兼ねることはできない。
 - (3) ベンチは大アリーナが本部席に向かって右側、小アリーナが入口側を若い番号とする。
 - (4) 学校対抗戦、個人戦とも主審は地元審判員が行う。学校対抗戦は原則として当該校から1名ずつ副審を出す。個人戦の副審は前の試合の敗者が行う。敗者はコートに待機し次の試合の副審をおこなう。なお、学校対抗戦、個人戦とも準々決勝からは主審・副審とも地元審判員がおこなう。
 - (5) 進行状況によりタイムテーブルや試合コートの変更をすることがある。
 - (6) 競技領域およびベンチで携帯電話やタブレットを使用するの通話・通信を禁止する。
 - (7) 無作為に選んで試合前のラケット検査を行うことがある。
 - (8) シューズの裏を拭くための雑巾などはベンチ付近に置く。床には直接置かず、よく絞ってからビニール袋などを敷いた上に置くこと。ゲーム間、タイムアウトのみ使用できる。